

令和4年度 中山間地農業ルネッサンス推進事業 活動報告書



愛知県
豊川市

目次

▶	事業の目的	1
▶	事業の概要と開催状況	2
▶	ワークショップ実施内容	3 - 9
	（事前調査	3
	第1回第1部	4
	第1回第2部	5
	第2回	6
	第3回	7
	第4回	8
	6つのコンセプト	9
▶	シンポジウム実施内容	10-11
	（シンポジウム	10
	アンケート結果	11
▶	参加者及びコーディネーター	12-13
	（参加者	12
	コーディネーター	13

事業の目的

事業対象である萩・長沢エリアの農地面積は、約218haで、田が約7割、畑が約3割という水稲中心の地域であり、音羽米というブランド米が栽培されているエリアです。

地域の課題としては、80歳以上で後継者未定の農業者の耕作面積が多いこと、また、営農条件が不利な中山間地域であり、将来的に耕作放棄地になる可能性が高いことなどがあげられます。そうした課題に対応するため、当該地域の萩エリアでは、土地改良事業による基盤整備に向けた活動の実施などの取り組みを展開し、長沢エリアでは、一般社団法人ファーム長沢の里の設立による集落営農の担い手の体制を強化することで、地域の持続可能な営農について取り組んできました。

このような地域の体制及び基盤の強化にあわせて、将来の営農を見据えた当該地域の包括的な課題の洗い出しや具体的な手法の整理を行うことが重要となります。そして、持続可能な営農を今後実践していくためには、地域で共通意識をもち、経営を意識した営農に一体となって取り組んで行くことが必要となってきます。

本事業では、今後の萩・長沢エリアの発展のために、当該地区の中心経営体を中心となり外部有識者を招聘したワークショップ等を開催し、全国的な気候変動対策や労働力不足、中山間地域という厳しい生産条件など、地域が抱える課題の洗い出しと共有を行いました。また、再生可能エネルギーの導入や環境に配慮した栽培方法の推進など、効果的な取り組みの検討を行うことにより、地域の持続可能な営農の実践につながる道筋を立てることを目指し実施しました。

この活動報告書は、本事業が今後の萩・長沢エリアの持続可能な営農活動の道標となるよう報告書としてまとめるものです。



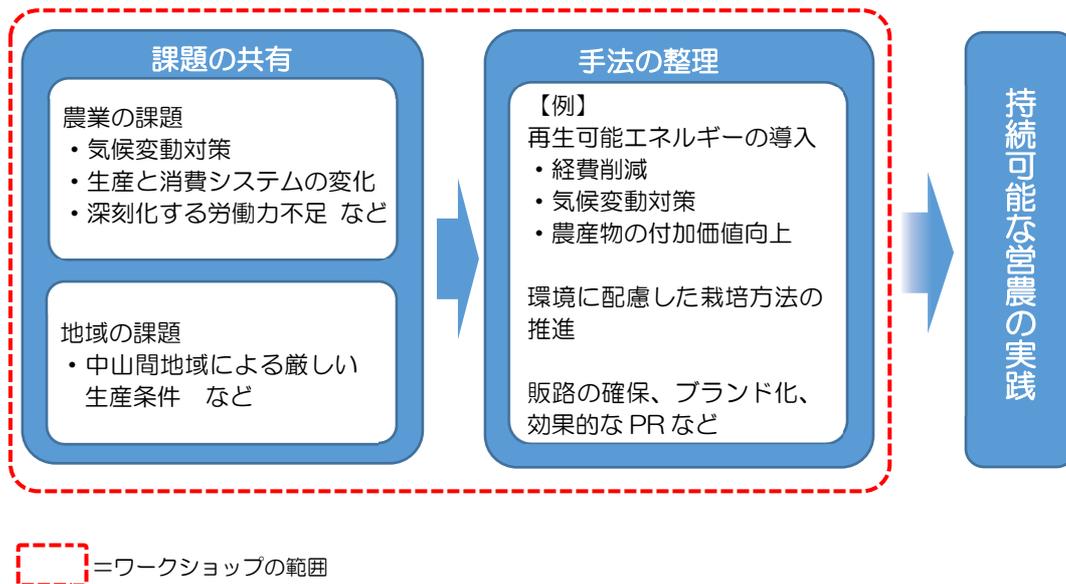
萩・長沢エリアについて
当該エリアは中山間地農業ルネッサンス事業実施要綱（平成29年3月31日付け28農振第2275号農林水産事務次官威名通知）第3の3の対象地域
◆特定農山村
◆農林統計上の中山間地域
萩エリア … 土地改良事業を予定
令和4～5年度：測量設計
令和6～9年度：工事（ほ場の大区画化、用排水路等の更新）
長沢エリア…一般社団法人ファーム長沢の里の設立
設立年度：平成30年度

中山間地農業ルネッサンス推進事業の概要と開催状況

1 概要

今後の萩・長沢エリアの発展のために、当該エリアの中心経営体が中心となり外部有識者を招聘したワークショップとシンポジウムを開催し、全国的な気候変動対策や労働力不足、中山間地域という厳しい生産条件など、地域が抱える課題の洗い出しと共有を行う。また、再生可能エネルギーの導入や環境に配慮した栽培方法の推進など、効果的な取り組みの検討を行うことにより、地域の持続可能な営農の実践につながる道筋を立てる。

ワークショップのイメージ



2 ワークショップ及びシンポジウムの開催状況

内容		日 時	場 所
ワークショップ	第1回	11月11日(金) 第1部 10:00~12:00 第2部 13:30~15:30	第1部 音羽運動公園 もくもくハウス 第2部 現場視察(萩・長沢)
	第2回	11月12日(土) 14:00~16:00	豊川市役所本庁舎 本31会議室
	第3回	11月18日(金) 14:00~16:00	豊川市役所本庁舎 本34会議室
	第4回	11月19日(土) 14:00~16:00	豊川市役所本庁舎 本31会議室
シンポジウム		12月11日(日) 14:00~16:00	豊川市音羽文化ホール

ワークショップの実施内容

ワークショップ

5月25日(水)-10月31日(月)

事前調査

萩・長沢地内
豊川市役所本庁舎 本31会議室



参照イラスト

ワークショップ及びシンポジウム(以下「ワークショップ等」という)が、萩・長沢エリアにとって、より効果的な内容になるように、農務課、コーディネーター及び中心経営体で、関係者へのヒアリングと現場視察を行い、事前打合せを重ねました。

令和4年5月25日(事前打合せ)

- ・事業の目的、概要、萩・長沢エリアの現状の共有
- ・ワークショップ等の進め方の検討

令和4年6月13日(事前打合せ)

- ・音羽米に関するこれまでの取り組状況の共有
- ・ワークショップ等の進め方の検討

令和4年7月6日(関係者ヒアリング/現場視察)

- ・萩・長沢エリアの中心経営体とのヒアリングにより当該エリアの現状と抱える課題を把握するとともに意見交換
- ・消費者(音羽米を食べる連絡会)から音羽米とともに歩んできた過去の体験等を聞き取るとともに意見交換
- ・長沢エリアの現場視察

令和4年7月7日(関係者ヒアリング/現場視察)

- ・地元企業からカーボンニュートラルに関する取り組みについて聞き取るとともに意見交換
- ・萩エリアの現場視察
- ・当該エリアの歴史的な背景を踏まえるため関連施設を視察するとともに、農産物の販売状況を把握するため地元の産直施設を視察

令和4年7月22日(事前打合せ)

- ・現場視察等を踏まえたワークショップ等の内容の整理

令和4年9月30日(関係者ヒアリング/会場下見)

- ・愛知県農業改良普及課及びJAひまわりとのヒアリングにより当該エリアの現状と抱える課題を把握するとともに意見交換
- ・ワークショップ等の会場を下見

令和4年10月31日(事前打合せ)

- ・ワークショップ等の具体的な進め方の確認及び調整

■農務課、コーディネーター及び中心経営体による打合せの様子



WEBによる打合せ

■コーディネーターによる関係者とのヒアリングの様子



萩・長沢エリアの中心経営体と



地元企業(有限会社岡本環境造園)と



愛知県農業改良普及課及びJAひまわりと



■現場視察の様子

- ① フロノ下の猪垣(長沢)
- ② ミツバチ飼育ほ場(長沢)
- ③ 産業廃棄物処理業者跡地(萩)
- ④ 土地改良予定エリア(萩)
- ⑤ 市指定文化財大橋屋(赤坂)
- ⑥ JAひまわりグリーンセンター音羽(赤坂)

ワークショップ

11月11日(金)

第1回第1部

音羽運動公園
もくもくハウス



参照イラスト

「持続可能な営農を実現するために」をテーマに掲げ、コーディネーターが主体となり、人間環境大学の学生の協力を得て、全4回のワークショップを開催しました。

第1回ワークショップの第1部では、事前調査の関係者ヒアリング等の内容を整理したイラストを活用し、参加者全員で音羽米の35年の振り返りと評価を行いました。

第2部では、音羽米に関係が深い場所を訪れ、関係者から現場で説明を受けました。

ワークショップの進め方

1) はじめに

- ・参加者とワークショップの目標と全4回のスケジュールの共有
- ・第1回のテーマ「次世代に残していきたい育んでいきたい「価値」とは？」の説明

2) 自己紹介

参加者の全員から自己紹介

3) 音羽米の35年を振り返る

《イラストを使って振り返り》

特に印象に残った事柄の箇所へ付箋を貼付し、その事柄を選んだ理由の発表

《付箋が多く貼られた事柄》

- ①減農薬米「音羽米」の始まりについて
- ②カメムシ被害について
- ③産業廃棄物問題について

《主な理由》

- ①安全で安心なお米を作ってほしいと生産者に意見した消費者、それに応えた農業者、マッチングした仲介者、サポートしたJAなど、関わった方の普段の立場や仕事の枠から一歩飛び越えたことで繋がり、音羽米が始まった経緯が印象的だった。
- ②カメムシが大量発生した際に、消費者から農薬を使ってもらって構わないと言われたのにも関わらず、農薬を使わず手作業のみで防除に徹した生産者と、カメムシによる影響が残るお米を購入することで生産者に寄り添った消費者の絆が、音羽米を象徴する出来事だと感じた。
- ③音羽米を守るため消費者と生産者が一体となって対応した一連の活動について、その行動力と残した結果に関心する。

4) 残していきたい育んでいきたい価値とは？

参加者全員から意見発表

《発表された意見(一部)》

- ・生産者と消費者の強い絆
- ・これまでの35年の取り組み、そのもの
- ・音羽米そのもの、お金では買えないブランドの価値

■ワークショップ第1回第1部の様子



ワークショップ開始前の打合せ(人間環境大学学生と)



ワークショップ参加者による自己紹介



コーディネーターによるワークショップの目標・進め方の説明



イラストを活用したコーディネーターによる音羽米のこれまでの取り組みの振り返り



これまでの音羽米の取り組みを振り返り、残していきたい育んでいきたい価値について意見発表

ワークショップ
第1回第2部

11月11日(金)
萩・長沢地内



参照イラスト



タイムスケジュール

13:30 発	(10分)	13:40 着-13:55 発	(5分)	14:00 着-14:15 発	(5分)	14:20 着-14:35 発
音羽運動公園	～移動～	①長沢土地改良検討エリア	～移動～	②「フロノ下」の猪垣	～移動～	③ミツバチ飼育ほ場
(10分)	14:45 着-15:00 発	(5分)	15:05 着-15:20 発	(5分)	15:25 着	15:30
～移動～	④産業廃棄物処理業者跡地	～移動～	⑤萩土地改良予定エリア周辺	～移動～	音羽運動公園	⇒ 解散

各ポイントでは、現場を知る参加者からの説明を聞きながら視察を行いました。

- ①長沢土地改良検討エリア
- ④産業廃棄物処理業者跡地
- ⑤萩土地改良エリア周辺



ワークショップ

第2回

11月12日(土)

豊川市役所本庁舎
本31会議室



参照イラスト

第2回ワークショップでは、萩・長沢エリアの営農を取り巻く変化をとらえ、そこから可能性や課題を考えることをテーマとして全体で意見発表を行いました。

また、最近の農政をめぐる情勢について、オブザーバーである農林水産省東海農政局から話題の提供がありました。

ワークショップの進め方

1) 話題の提供

最近の農政をめぐる情勢について、農林水産省東海農政局から発表があり、参加者全員で共有

2) 変化を確認する

- 音羽米 20周年から 15年経過し、その間の音羽米を取り巻く状況の変化について、参加者に付箋に記入してもらい発表
- その付箋を模造紙に貼り付けてグルーピングすることで共有

《出された意見(一部)》

- お米の消費の減少
- 生産者の減少
- 急激な気候変動

3) 「可能性」と「課題」を考える

- 気になった変化について、「ポジティブな変化(=ピンチをチャンスに変えることができる可能性を秘めた変化)」と「ネガティブな変化(=受け入れるしかない変化や課題)」に分け、参加者それぞれ、自分の名前を書いた付箋を該当する変化に添付
- 理由を発表して全体で共有

《ネガティブな変化(一部)》

- 生産コストが上昇した。
- 世代間の感覚の違い(ズレ)。

《理由》

- 米価は高くない一方で燃料や肥料等の価格は上昇している。
- いつの時代でも世代間の感覚の違いはあること。諦めずぶつかり合うことが必要。

《ポジティブな変化(一部)》

- お米の消費量が減少した。
- 生産者の減少・高齢化とそれに伴う十分な栽培管理ができなくなっている。

《理由》

- お米のポテンシャルはあるためお米ブームを起こせる可能性あり。
- 生産者に限らない様々な関係者が関わりを持てる余地が増えている。

■ワークショップ第2回の様子



東海農政局による最近の農政をめぐる情勢について話題提供



第1回のワークショップの話合った内容を全員で整理・共有



「可能性」と「課題」について模造紙を活用した意見出し



参加者による意見発表



音羽米を取り巻く環境の変化と変化の「可能性」と「課題」について整理



参照イラスト

第3回ワークショップでは、価値を実現し、課題を乗り越えるための「アイデア(農業×X)」を出し合うことをテーマとしてグループに分かれてアイデア出しと整理をした後、全体にて発表を行いました。

また、4つの事例について紹介がありました。

ワークショップの進め方

1) 事例紹介

- ・「生活クラブ生協の取り組み」
- ・「岡本環境造園の取り組み(豊川里山カーボンニュートラル協議会概要について)」
- ・「農業と再生可能エネルギーの事例」
- ・「炭蓄電器「TANDEN®」(島根県雲南市)の事例」

2) アイデア(農業×X)

- ・第1回、第2回、事例紹介を参考に3つのグループに分かれ「農業×X」のアイデア出しを実施
- ・縦軸を「育てる」「販売する」「消費する」「+α」、横軸を「教育」「観光」「再エネ」「アート・エンターテイメント」「+α」とするマトリクス表を使ってアイデア出し
- ・その後、グループごとに発表を行った。気になるアイデアに3票/人の付箋を貼り第4回に向け意見を集約

《出された意見(一部)》

横軸＝「教育」

- ・学校給食での活用促進
- ・都会の大人を対象としたオーナー式体験農業
- ・学生を対象に合宿、学習会

横軸＝「観光」

- ・休耕地等を活用したキャンプ場
- ・米粉でつくるグルテンフリーのスイーツ
- ・里山全部ドッグラン

横軸＝「再エネ」

- ・沢での水力発電、太陽光発電
- ・くん炭販売によるもみ殻の有効利用

横軸＝「アート・エンターテイメント」

- ・音羽米のドキュメンタリー映画、絵本、歌の製作
- ・イノシシ、シカなどの有害鳥獣を見るナイトサファリ体験

横軸＝「+α」

- ・「福祉」⇒農業のできるフリースクール
- ・「移住促進」⇒お見合いマッチング、音羽米スイーツ、週末移住
- ・農作業による青空ジム
- ・消費者の多様な要望に応える音羽米の精米所の活用

■ワークショップ第3回の様子



農業と再生可能エネルギーの事例紹介の様子



グループワークの様子(その1)



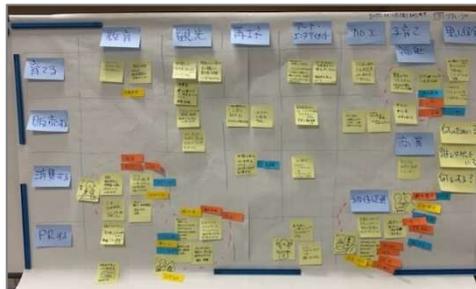
グループワークの様子(その2)



グループワークで話合った内容の全体発表の様子(その1)



グループワークで話合った内容の全体発表の様子(その2)



アイデア(農業×X)について整理

ワークショップ

11月19日(土)

第4回

豊川市役所本庁舎
本31会議室



参照イラスト

最後となる第4回ワークショップでは、アイデアを膨らませ、「次の一歩」につなげることをテーマとしてグループに分かれてアイデア出しと整理をした後、全体にて発表を行いました。

コーディネーターにより、第3回のワークショップにおいて出された意見を6つのコンセプトに集約しました。そのコンセプトごとにグループに分かれワークショップを行いました。(6つのコンセプトの詳細は次ページを参照)

最後は、参加者全員で円になり、音羽米に関して今後実践すること(したいこと)を一人一言発表して、ワークショップを終了しました。

ワークショップの進め方

1) マーケットプレイス

第3回の結果をもとにコーディネーターがまとめたコンセプト案を確認し、参加者からテーマオーナーを選出しコンセプトごとにチームを作りました。

2) テーマ別対話

6つのコンセプトごとに、横軸では「具体的な取り組みアイデア」を出していき、縦軸には「だれがターゲット」「どんな目的・効果」「どんなことをやるのか」「取り組み主体は誰か」「関わる人は」「どんなことに気を付けるか」の項目について埋めていくことでアイデアの具体化をしました。

《話し合いにより出された横軸＝具体的な取り組みアイデア(一部)》

- ①「厄介者？」を「果報者」へ
横軸＝「ジビエ解体ショー」「ジャンボタニシで減農薬」「カメムシとり大会」
- ②音羽米2.0：一歩先の音羽米ブランドへ
横軸＝「身近なファンづくり」「ハレの日 音羽米(米×電気×特別な日のごはん)」「めぐる音羽米(米×環境×畜・野菜)」
- ③音羽米ファミリーの絆を強める
横軸＝「消費者ニーズにあわせた精米所」「給食」「音羽米を使う食堂・弁当屋」「体験農場⇒援農⇒就農」
- ④音羽米の世界にいざなう
横軸＝「田んぼ見学会」「観光」「イベント」「ゲーム大会(音羽米GO!、リアルピング大会)」
- ⑤私だけの音羽米を五感で味わい尽くす
横軸＝「健康、美容、長寿⇒青空ジム、遊歩道、キャンプ、サファリ、ドッグラン、コンサート」
- ⑥音羽米人生再生(創生)劇場
横軸＝「音羽米スイーツ店」「キッチンカーの集い」「赤ちゃん用食品」「フリースクール」「農作業体験」「週末移住」

■ワークショップ第4回の様子



グループに分かれて参加者から選出されたテーマオーナーを中心にアイデア出しと整理



グループで話合った内容を全体発表



音羽米に関して今後実践すること(したいこと)を一人一言発表している様子

第3回のワークショップにおいて出された 意見を集約した6つのコンセプト

「厄介者？」を「果報者」へ

カメムシ、猪や鹿等の鳥獣、ジャンボタニシなど、音羽米を育てていく上で避けて通れない「厄介者」たち。知恵を絞れば「果報者」へと変える手立てがみえてくる？

音羽米ファミリーの絆を強める

生産者と消費者が一体となって築き上げてきた音羽米。絆をさらに強固なものにするには？自分たちのお米として、地元の人たちにもっと誇りに思ってもらうには？

米だけの音羽米を五感で味わい尽くす

人の数だけ音羽米との付き合い方がある。でも、食べるだけではもったいない。無限に広がる音羽米の可能性をもっと引き出すには？

音羽米2.0：一歩先の音羽米のブランドへ

低農薬で、生態系の欠かせない一部として自然と一体化して進められてきた音羽米の営農。より自然と一体化し、唯一無二の揺るぎないブランドへと高めていくには？

音羽米の世界に「いざなう」

一度口にしたら二度と戻れないと言われる音羽米。この魔力を多くの人に知ってもらうには？

音羽米人生再生(愈生)劇場

音羽米には、人生を変える力がある。人に居場所を、第二の故郷を与えてくれる音羽米の営農のあり方とは？

シンポジウム

12月11日(日)

豊川市音羽文化ホール

プログラム

- 14:00 市長あいさつ
豊川市長 竹本幸夫
- 14:05 来賓代表あいさつ
衆議院議員 今枝宗一郎
- 来賓紹介
愛知県議会議員 藤原宏樹
愛知県議会議員 おおたけりえ
豊川市議会議長 早川喬俊
- 第1部
14:10 講演1
「食とエネルギーを活用した中山間地域活性化」
農林水産省 農村振興局 農村政策部
農村計画課 都市農業室長 新田直人
- 14:30 講演2
「中山間農地が生み出す可能性について～課題を
チャンスに変える奮闘記録～」
株式会社さがみこファーム
代表取締役 山川勇一郎
- 14:50 第2部
ワークショップの実施状況報告
豊川市産業環境部農務課農政係長 山本今日彦
- 15:10 第3部
パネルディスカッション
コーディネーター：吉岡剛
パネリスト：
○農林水産省 農村振興局 農村政策部
農村計画課 都市農業室長 新田直人
○株式会社さがみこファーム
代表取締役 山川勇一郎
○生活クラブ生活協同組合
理事長 中野 京子
○有限会社こだわり農場鈴木
代表取締役 鈴木晋示
○一般社団法人ファーム長沢の里
小野 卓也

※パネルディスカッションの詳細は、別添の付録をご参照ください。

【中山間地農業ルネッサンス推進事業】 音羽米 35 周年

持続可能な農業について

— 音羽米の古里、萩と長沢から考える —

会場 豊川市音羽文化ホール（ウインディアホール）
豊川市赤坂町松本 250
またはオンライン

定員 会場参加 140名 ※先着順
オンライン 無制限

参加料 無料
(会場参加・オンラインともに事前申込が必要です)

申込方法
◆ QRコードまたは下記URLより申込ください。
https://www.shinsei-e-aichi.jp/city-toyokawa-aichi-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=62019
◆ メール(上記にアクセスできない場合)
タイトルを「シンポジウム申込」とし、住所、氏名、連絡先、参加方法(会場 or オンライン)を本文に記入の上、右記までメールください。 nomu@city.toyokawa.lg.jp

申込期限：12月8日(木)

12.11.2022 SUN
14:00 - 16:00
(開場 13:00)

◆ あいち電子申請システムから(QRコード) ※申込期限：12月8日(木)
右のQRコードまたは下記URLより申込ください。
https://www.shinsei-e-aichi.jp/city-toyokawa-aichi-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=62019
◆ メール(上記にアクセスできない場合)
タイトルを「シンポジウム申込」とし、住所、氏名、連絡先、参加方法(会場 or オンライン)を本文に記入の上、右記までメールください。 nomu@city.toyokawa.lg.jp

※新型コロナウイルス感染症拡大状況によって定員を減らすことがあります。
※感染症拡大防止のため、入場には事前の検温、手指消毒、マスク着用をお願いします。

第1部
「食とエネルギーを活用した中山間地域活性化」
農林水産省 農村振興局 農村政策部 農村計画課 都市農業室長 新田直人氏
「中山間農地が生み出す可能性について～課題をチャンスに変える奮闘記録～」
株式会社さがみこファーム 代表取締役 山川 勇一郎 氏

第2部
「中山間地農業ルネッサンス推進事業によるワークショップの実施状況」
豊川市 産業環境部 農務課
「萩・長沢地区の農業のこれまでのあゆみとこれからの農業」
有限会社こだわり農場鈴木 / 一般社団法人ファーム長沢の里

第3部 パネルディスカッション
【コーディネーター】 東京大学大学院工学研究科 特任研究員 吉岡 剛 氏
【パネリスト】 農林水産省 農村振興局 農村政策部 農村計画課 都市農業室長 新田直人氏 /
株式会社さがみこファーム 代表取締役 山川 勇一郎 氏 / 有限会社こだわり農場鈴木 /
一般社団法人ファーム長沢の里 / 生活クラブ生活協同組合 理事長 中野 京子 氏
※プログラムの内容は変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

主催：豊川市 / 協力：JAひまわり ※問合せ先：豊川市産業環境部農務課農政係 TEL：0533-89-2138



会場参加 90人
オンライン参加 17人

シンポジウムにおけるアンケート結果（まとめ）

アンケートの概要

《回答件数》

60件

《属性》

住まいについて：市内（萩・長沢）15件【25%】、市内（萩・長沢以外）27件【45%】、市外16件【27%】、無回答2件【3%】

年齢：～10代；1人【2%】、20代；3人【5%】、30代；3人【5%】、40代；14人【23%】、50代；18人【30%】

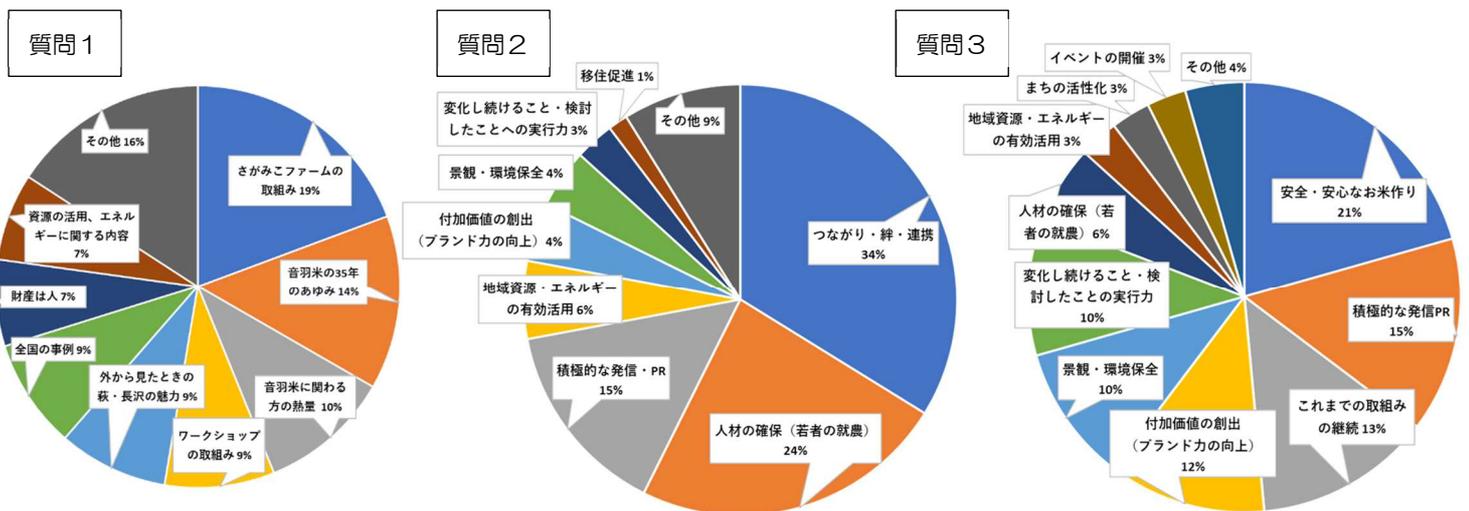
60代～；20人【33%】

《質問項目》

質問1 本日のシンポジウムで一番印象に残ったことは何ですか。

質問2 萩・長沢地区における持続可能な農業をしていくために必要なモノ・コトは何だと思いますか。

質問3 これからの音羽米に期待することは何ですか。



質問1の回答（一部）

- ・お米の消費の減退により厳しい現実を感じていたがワークショップにより可能性を見出したことはすばらしいと感じました。
- ・音羽米の35年の歴史について感動を覚えた。（努力の足跡）
- ・地域の方々の音羽米に対する熱量の高さ
- ・外の方から見た萩・長沢エリアの（地元にいると気付けない）魅力
- ・地域の一員としてもっと頑張らなくてはと思った。
- ・太陽光パネル利用の話について、良い面ばかりで悪い面（捨てる時の問題、有害物質の問題）の話があってもよいと思った。

質問2の回答（一部）

- ・利益追求型にならない付加価値の創造
- ・若い人たちがどんなこと（例えば畦の草刈りや野菜などの収穫体験でも）にしても農作業に携わってもらいたい。
- ・消費者が萩・長沢を「ふるさと」と感じてくれるような仕組みをつくる。
- ・エネルギーの創出、歴史的資源（棚田や猪垣）の活用などにより、農業と関わりのない人々との交流を深めていくこと。
- ・今まで築き上げてきたあゆみを残しながら、その価値を全面的に伝えること。

質問3の回答（一部）

- ・音羽米から町の活性化につながってほしい。
- ・萩、長沢の景色が、これからも豊かなものであってほしい。
- ・これからも安全で美味しいお米を期待しています。
- ・減農薬米を大いにアピールすることで、ここにしかできない、作れないお米であるという付加価値を高めてほしい。

ワークショップ参加者（敬称略、順不同）

区 分	氏 名	備 考
菫・長沢エリアの中心経営体	小野 博史（一般社団法人ファーム長沢の里）	
菫・長沢エリアの中心経営体	小野 卓也（一般社団法人ファーム長沢の里）	
菫・長沢エリアの中心経営体	岡田 敏昭（一般社団法人ファーム長沢の里）	
菫・長沢エリアの中心経営体	鈴木 晋示（有限会社こだわり農場鈴木）	
菫・長沢エリアの中心経営体	鈴木 希世美（有限会社こだわり農場鈴木）	
菫・長沢エリアの中心経営体	鈴木 農生雄（有限会社こだわり農場鈴木）	
菫・長沢エリアの中心経営体	井戸 由佳（有限会社こだわり農場鈴木）	
菫・長沢エリアの中心経営体	鈴木 理来（有限会社こだわり農場鈴木）	
菫・長沢エリアの中心経営体	正池 孝（有限会社こだわり農場鈴木）	
菫・長沢エリアの中心経営体	府木 壮一郎（有限会社こだわり農場鈴木）	
菫・長沢エリアの中心経営体	夏目 徳道	
音羽米を育てる研究会	山口 勝	
音羽米を育てる研究会	伊藤 嘉彦	
音羽米を育てる研究会	加藤 章司	
音羽米を育てる研究会	稲葉 守雄	
JAひまわり	牧野 延全	
JAひまわり	田口 光宏	
愛知県農業改良普及課	鈴木 潤	
愛知県農業改良普及課	松本 祐保	
生活クラブ生協	中野 京子	
生活クラブ生協	市野 正枝	
生活クラブ生協	門脇 恵美	
人間環境大学	今川 英士	
人間環境大学	中西 弥紗	
人間環境大学	渡邊 昭政	
漬物本舗 道長	石川 豊久	
音羽米を食べる連絡会	沖 章枝	
有限会社岡本環境造園	市川 勝久	
有限会社岡本環境造園	木下 雄也	
東海農政局	佐藤 和正	オブザーバー
東海農政局	古溝 和幸	オブザーバー
人間環境大学	藤井 芳一	オブザーバー

コーディネーターの紹介（順不同、敬称略）

吉岡 剛（東京大学大学院工学研究科 特任研究員）

再生可能エネルギー等に関する調査・研究、国・自治体の政策支援、地域におけるエネルギー事業の立ち上げ等に従事。脱炭素先行地域評価委員会委員（環境省）。

田原 敬一郎（未来工学研究所／科学コミュニケーション研究所）

科学技術が関わる社会問題や地域創生などを対象に、対話方法論の研究や実践的活動に従事。東京大学客員准教授、内閣府総合科学技術会議検討WG委員などを歴任。

宇都 幸那（グラフィックレコーダー）

イベント参加者の思考を深め、話し合いの中で良いもやもやを作るため、グラフィックを用いた場づくりに従事。北海道大学環境科学院修士課程修了。

黒崎 晋司（株式会社黒崎事務所 代表取締役）

総合計画・農業振興計画など自治体の計画策定や行財政改革などを始め、計画策定に不可欠な住民参加のワークショップの企画・運営に全国各地で携わる。

篠田 さやか（オフィス・キュア代表）

都市計画コンサルタントとして、市民参加型まちづくりに関する調査等に携わるとともに、参加の場におけるファシリテーター、PIトレーニングやコミュニケーション研修講師を務める。

参加者集合写真（ワークショップ第1回第2部：長沢エリアにて）



所感

今回、様々な分野の方々にご協力をいただけたことで、広い視野で話し合いができ「萩・長沢エリアの持続的な営農」についてワークショップ及びシンポジウムが盛り多い内容となりました。この場をお借りし御礼申し上げます。35年前から始まった音羽米のこれまでの取り組みにも様々な方が関わり現在に至っております。この絆がより太く、全国、世界へと広がる活動の展開につながることを、そして、萩・長沢エリアの活動が「音羽モデル」として同様の課題を抱える他の地域のモデルとなることを期待しております。

あれから35年 音羽米のあゆみ

減農薬米運動の始まり



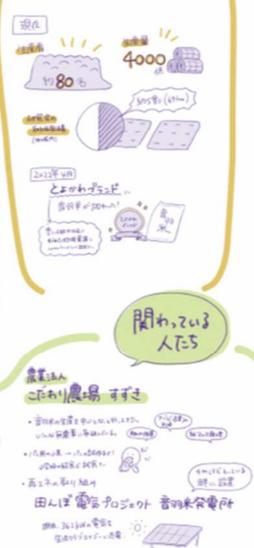
主体となった団体



取り組んでいた問題



そして現在...



生活への生協受知



7年連続の豊作(2021年)



開かれている人た5

農業者の収入増

- ・音羽米の産地を応援する活動が、農業者の収入増に貢献している
- ・2022年産の音羽米は、前年比で1割増の収入を得ている
- ・高品質の音羽米は、産地以外でも人気がある

■ 発行 豊川市産業環境部農務課
〒442-8601 豊川市諏訪1丁目1番地
TEL 0533-89-2138

■ 発行年月 令和5年3月